

Net Work Report **FORWARD** for working together

ネットワークレポート
フォワード 第44号

特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14(エルおおさか4F)

TEL:06-6949-0350
FAX:06-6949-1256

http://www.workwith.or.jp/
E-mail:o-isc@onyx.dti.ne.jp

発行人/江口 敬一

今号のごあいさつ

「2012 障がい者雇用フォーラム in 大阪」開催に向けて

代表理事 江口 敬一

今年の「障がい者雇用フォーラム in 大阪」は、9月25日(火)に昨年と同じ追手門学院大阪城スクエアで開催する運びとなりました。

今回は中小企業の街大阪に相応しく中小企業における障がい者雇用に焦点を当て基調講演、公開シンポジウムを企画いたしました。基調講演をお願いする矢野紙器(株)の代表取締役社長 矢野孝氏は、1995年に前川朋久連合大阪会長(当時)が提唱された「障がい者雇用日本一の大阪に」を旗印にスタートした任意団体「大阪障害者雇用支援ネットワーク」(現NPO法人)の設立来のメンバーで、当時、大阪府中小企業家同友会障がい者問題委員長として中小企業経営者の立場から参加されてきた障がい者雇用のパイオニア的存在であり、またネットワークの精神的支柱の一人で現在も理事の職にあります。2006年にネットワークが内閣府より「バリアフリー化推進功労者」として内閣総理大臣表彰を受章した際に発行されたNPO広報誌「フォワード10周年特別記念号」で矢野理事らしい障がい者雇用についてのコメントがあり、あらためてご紹介させていただきたいと存じます。

『感動を呼び起こすNPO…』

ある知的な障がいを持つ社員が入社し、「この人と一緒に働くのはイヤだ」と始めは言われ、「この人がいなければ皆が困るんです」と評価を受け、運転免許の取得というチャレンジに同僚たちがサポートし、その合格の報告に現場から拍手が巻き起こった。10年の歳月を要したと

いう。共に働く事を通して共感し合える職場が生まれました。

しかし、そんな機会に出会えない人たちがいる。その課題に向き合う

同志が集まって10年になる。共働の中、共鳴し合えるNPOが生まれた。この活動は、地域という土俵で感動を呼び起こすに違いない。

2006年3月 矢野 孝』

本フォーラムは1994年9月に第1回が開催され、お蔭様で今年18回目を迎えます。ご登壇いただく矢野社長はじめ(有)奥進システム 奥脇学代表取締役、(有)サンライズCLID大阪 奥村葉穂美代表取締役、丸善運輸倉庫(株) 森藤啓治郎代表取締役社長は、厳しい経済情勢の中、現実と向き合い、どんなに苦しい時にも逃げることなく一歩前に進もうとされてきたチャレンジ精神溢れた経営者の方々です。今回は恒例の大阪府ハートフル企業顕彰、NPOランプのともしび企業活動顕彰表彰式終了後、「中小オーナー企業に障がい者雇用の原点を学ぶ」をテーマにきらっと光る4人の経営者を講師に、障がい者雇用と企業経営について会場の皆様と共に学び、思いを共有し合う機会にしたいと存じます。多数のご参加をお待ちしております。



第12回通常総会開催

～障がい者の雇用促進に向け、 元気なオーナー経営者に学ぶ～

広報事業部 岩崎 富巳子

5月26日（土）、NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワークは、(株)ダイキンサンライズ摂津で第12回通常総会を開催した。あいさつに立った江口代表理事は、「平成25年4月1日より法定雇用率が2.0%に引き上げられる。日本にいる障害者の環境の追い風になることは間違いない。」と期待を寄せた。

今年度の執行方針は、中小企業における障害者雇用に焦点を当て、障害のある社員に支えられて経営も成り立ち、会社も存続しているという元気なオーナー経営者に学ぶ機会を設け、関係団体、会員等と共有、連携することを確認した。来賓には多くの方にお越しいただき、3名の方から祝辞をいただいた。役員体制については、任期途中の退任に伴う欠員補充として3名の新規役員が選任された。

大阪労働局職業安定部：川端 康裕 職業対策課長 (西岸大阪労働局長祝辞代読)

現下の雇用失業情勢が依然として厳しい状況にある中、ハローワークを通じた障がい者の就職件数が59,367件と約6万件の就職数を計上し、過去最高の数字となっている。大阪においても、3,775件とこちらも全国と同様に過去最高の数字である。就職支援にあたっては、困難性がより高い新規登録者が増えているにもかかわらず、就労の場で活躍いただける障がい者の方々が増えているのは、支援団体の皆様の力であり、障害者雇用に理解を示し、社会的な責任を果たそうと努力を重ねている企業の力添えの賜物である。平成24年度においても、障害者一人一人に応じた、きめ細かな職業相談・職業紹介、ならびに職場適応指導を行い、就職を希望している障がい者の方が、一人でも多くの希望を叶えられるように、また、職場になじんでイキイキと仕事を続けていけるように取り組んで参りたい。

大阪府商工労働部雇用推進室：山口 宗久 雇用対策課長 (松井大阪府知事祝辞代読)

大阪府では、障害者雇用日本一を目指すため、平成22年4月にハートフル条例を施行し、2年が経過した本年度は、初期の雇入れ計画が終りを迎えることから、法定雇用率の達成に向けた指導と支援にさらに取り組んでいく。また、ハートフル企業顕彰制度の中に、今年度から新たに「ハートフル企業チャレンジ応援賞」を創設。障がい者の働きやすい職場づくりに取り組む事業主を表彰するとともに、府民・企業の皆様から

の寄付で運営している「大阪ハートフル基金」を活用して「チャレンジ応援事業補助金」を創設、応援賞を受賞した事業主の中から特に優れた取組みを行う事業主をサポートしていく。

教育面では、就労支援に重点をおいた高等支援学校を府内3地域に整備していくほか、「職業コース」を新たに4校の支援学校に設置するなど、早期からの職場実習を柱とする実践的な職業教育の推進に取り組んでいく。

連合大阪 多賀 雅彦 事務局長

連合は、目指すべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」を提起している。

働くことに最も重要な価値をおき、誰もが公正な労働条件のもと、多様な働き方を通じて社会に参加でき、すべての労働者が安心して働き、暮らせる社会をめざしている。年齢や性別、様々な障がいの有無にかかわらず、誰もが働き、繋がることのできる仕組みを作り出していくことが必要である。各自治体で行う政策要請においても若年者・女性・障害者への雇用対策強化を求めている。すべての人々に、人間的で誇りのもてる働く機会が提供されるよう、連合大阪として、障害者の雇用促進に向け、さらに皆様方との運動的な連携を強化していく、させていただくことをお願いしたい。

各事業部の新年度事業計画

【インターンシップ事業部】

《執行方針》

障害がある方への事業所における体験実習（障がい者の態様に応じた多様な委託訓練）を通じ、地域の支援機関、支援者、家族と連携した一体的な個別就業生活支援マネジメントを企画・実施。当ネットワークに相談される障害がある方への社会参加を応援する。



▲総会の様子

《事業項目》

- (1)障害のある人の職場実習の実施に係わる仲介と支援
 - ①障害者インターンシップ
 - ②学生インターンシップ研修
- (2)障害のある人の雇用と就労の推進に関する相談の受付
 - ①お・こ・しカフェ
- (3)障害のある人の雇用と就労の推進に関する講習会の開催
 - ①進路指導担当者向け研修

【地域ネット事業部】

《執行方針》

企業の障害者雇用の促進と継続を図るため、情報提供やコンサルティング体制を充実させ、企業が主体となって相互の情報交換をし、支援し合う事ができるネットワークづくりに取り組む。また、OSK企業ネットが障害のある人が地域で働き、そして充実した生活を営める環境づくりの一翼を担う確固とした社会資源となるよう地域の関係諸機関等とも連携をしながら、大阪府下の各地域にネットワークの輪をさらに量的・質的に広げる。

《事業項目》

- (1)障害のある人の雇用と就労の推進に関する会議の開催
 - ①ハートフル事業所ネットワーク事業／OSK企業ネットフォーラム全体会
 - ②障害者雇用企業情報交換会議（地域企業ネットワーク構築）
 - ③OSK企業ネット会員・企業ネット事業部拡大運営会議
- (2)障害のある人の雇用と就労の推進に関する会議、講演会の開催
 - ①ハートフル事業所ネットワーク事業／障害者雇用企業情報交換会議（OSK企業ネットフォーラム）
 - ②平成24年度ハートフル事業所ネットワーク事業

【ジョブコーチ事業部】

《執行方針》

平成18年に職場適応援助者養成研修の指定を受け、福祉サイドの第1号職場適応援助者（ジョブ・メイト）及び迎え入れる側である企業サイドの第2号職場適応援助者（ジョブ・コンダクター）の養成研修を実施し、これまでに700名近くが受講を修了している。働く本人と企業（仕事）をつなぎ、就労から定着に至る過程で重要な役割を果たすジョブコーチへのニーズはますます高まると思われ、受講修了者のネットワークや他の研修機関とのネットワークも視野に入れ、事業部の活動を進める。

《事業項目》

- (1)障害のある人の雇用と就労の推進に関する講習会の開催

①職場適応援助者養成研修の開催

- *ジョブ・メイト／ジョブ・コンダクター養成事業（大阪）
- *ジョブ・メイト／ジョブ・コンダクター養成事業（兵庫）
- *ジョブ・メイト／ジョブ・コンダクター養成事業（アドバンスト研修）

(2)障害のある人の雇用と就労の推進に関する会議の開催

- ①職場適応援助者養成研修機関連絡会への参画

【広報事業部】

《執行方針》

就業しようとする障害のある人とそれを取り巻く事業主、支援者や家族をはじめとする関係者、そして障害のある人の就労に関心のある人に対して広く情報を提供する。

《事業項目》

- (1)障害のある人の雇用と就労の推進に関する会議、講習会の開催
 - ①障害者雇用フォーラム in 大阪
- (2)障害のある人の職務開発と雇用の推進に関する支援と情報の提供
 - ①機関誌「FORWARD」の発行
 - ②ホームページの発信

【顕彰事業部】

《執行方針》

障害のある人の雇用、働く場面の創出、働く気持ちの尊重、働く可能性の開発などに貢献する企業を探し、評価し、さらに広げていくことを目標とする。

「ランプのともしび大賞」表彰にかかる活動を大阪府より継続し、NPO会員関係者からの推薦により理事会において選考、「障害者雇用フォーラム in 大阪」で表彰式を行う。

《事業項目》

- (1)障害のある人の職務開発と雇用の推進に関する支援と情報の提供
 - ①ランプのともしび企業活動顕彰事業

■新役員体制	
代表理事	江口 敬一
副代表理事	井尻 雅之
副代表理事	湯川 隆司
理事	伊集院 貴子
理事	乾 伊津子
理事	岩崎 富巳子
理事	應武 善郎
理事	奥脇 学
理事	金塚 たかし
理事	酒井 京子
理事	嶋田 彰
理事	森 悟子
理事	矢野 孝
監事	時枝 民生
監事	安藏 崇史
最高顧問	關 宏之

第12回通常総会記念講演会

記念講演「大阪障害者雇用
支援ネットワークの思い出」

広報事業部 岡本 忠雄

第12回通常総会終了後、当雇用支援ネットワーク理事として活躍され、障害のある人の就業や地域での就労環境の整備等、障害福祉施策の向上に多大な貢献をされた、前・大阪市障害者就業・生活支援センター所長の久保克己氏より理事退任のご講演をいただきました。

○就業支援への関わり

幼少期、ツベルクリン反応での他人との違いや色の識別に困難さがあり、自分は「他の人とちょっと違うんやなあ」と感じました。高校時代はスポーツに明け暮れた日々を過ごし、「世の中を変えるには、全ての人々の意識が変わったら、変わるんちゃうか」と意識の勉強をしようと大学を選択しました。1975年に大学院へ進学。卒業後も大学院で研究を重ねましたが、知人を通じての関氏との出会いから、1985年職業リハビリテーションセンター開設に向け入職。当時まだ雇用率の算定となっていなかった知的障害のある人の就労支援等に取り組むこととなりました。その後、大阪市住之江区の大阪市職業指導センターの開設準備に携わり、地元住民や周囲との関わりに悩みながら、1995年に同センターをオープン。1996年大阪障害者雇用支援ネットワーク（以下、NPO）が設立され、指導センターの2F集会室で「雇用フォーラム」が開催される際にNPOの方々と初めて関わりを持ちました。この頃はNPOよりも、中小企業家同友会で企業家の方々との密接な繋がりを持ちながら、就業支援を進めていました。

○NPOでの活動～ランプのともじび大賞創設

2001年には、障害のある人の総合的な相談窓口を開設することとなり、総合相談室長に就任。同時にNPOの支援事業部として参画することとなりました。その流れの中で、地域障害者雇用相談会の実施に関わり、後に、大阪が全国で最初に全福祉圏域で就業・生活支援センターが設置されたという成果に繋がりました。

また、NPOの炭田理事が「ネガティブな方針で雇用を進めるのではなく、障害のある人を雇用している企業を褒めるようなことをしよう。」と商工労働部に提案し、事業プレゼンを経て「障害者雇用企業顕彰事業」が2002年にスタートすることとなりました。

顕彰事業では、故人の表彰にも取り組み、大阪での障害者雇用に関して多大な貢献のあった大阪ダイヤモンド工業の入江氏を表彰。娘さんへ賞状が手渡されました。2005年には、「ヘレ

ンケラーの来阪が障害者雇用に火をつけた」こと、「障害者雇用の発祥の地は大阪」であることをPRした地下鉄美術館を実施。その地下鉄美術館の流れを汲み、企業顕彰において「ランプのともじび大賞」が2006年に創設されることとなりました。

2007年には、大阪府障害者自立支援協議会委員にも就任しました。

○あじみやさんの表彰、ソーシャルアクション

2008年のNPO企業顕彰での「あじみ屋」さんの表彰は、大きな政策反映の契機となりました。表彰式では府知事が初めて出席し、表彰状を授与されました。橋下知事は「昨日の知事大賞表彰授与の際に、あじみ屋様が感極まって、本当に嬉しそうに賞状を受け取ってくださった。知事就任以来、賞状を差し上げる機会は山ほどあったが、このように喜んでいただき、たった1枚の賞状の重みを感じたことはない。ハートフル企業表彰は、表彰状No.1である。これもひとえに、この顕彰制度をこれまで大事に育てていただいたご関係者の皆様のご努力のおかげと感謝申し上げます。今後とも引き続き、ご努力をお願いしたい。」とコメントされました。

その後、「障害者雇用No.1に向けて頑張るように」との言葉があり、この時の感動がきっかけとなり、全国の自治体で初めての障害者雇用に関する条例である「障害者雇用促進条例」が大阪で制定される運びとなりました。

この条例制定につながった顕彰事業を始めNPOの事業は、間接的に世の中の仕組みづくりを変えていくための事業であり、「ソーシャルアクション」と位置づけられます。本来業務である就業・生活支援センターの業務は、関係諸機関とのネットワークが必要であり、就業支援のネットワークを拡げていくためにも、NPOの事業を推進しながら、業務を進めさせてもらいました。

もう一つの成果は、大阪府自立支援協議会において、2012年4月以降に就労支援部会が設置されるということに繋がりました。関係者が一同に会して就労の準備を厚くするためにも、これらの領域が必要になってきます。

○これまでの振り返り、現在の状況

これまでを振り返ると、技能付与を主体とした職業リハビリテーションから、就業支援は大きく変化しました。働くことは、障害のある人

の生活の活動領域を拡大し、人間関係、個性をも拡大していく行為です。活動領域が拡大することで今まで出会ったことのない出来事や有害な事象に出会うことがあり、そういった障害要因をクリアにすることが必要となってきます。生活領域の部分で就業が継続できなくなるケースが非常に多く、そこを上手くすり抜けられるようなカーナビのようなシステムがあれば、自分で困難に直面して後ずさりするのではなく、捌いていけるような仕組みづくり、それらを用意するのが、就労支援や生活支援の支援者の役割ではないかと思えます。

退職後は、大学での非常勤講師等をしながら、もう一度、社会福祉の勉強やジェネラリスト・ソーシャルワークといった勉強をしています。

NPO理事としては退任しますが、今後もNPO

に関わり、この退任記念講演を退職金代わりとして、金銭に代えがたい貴重な時間をいただきました。

久保氏は、沢山の事業の立ち上げに関わり、数々の施設で所長という重責を果たし、当NPOにおいても多大な貢献をされました。



▲今総会で退任される久保克己さん

楽しく、親しみのある語り口で、面白いエピソードを交えながら、貴重なご講演をいただきました。長年のご貢献に感謝いたしますとともに、今後ともますますのご活躍を祈念いたします。

「2012 障がい者雇用フォーラム in 大阪」にご参加ください

「障がい者雇用フォーラム in 大阪」は、障がいのある人の雇用と就労の促進を目的として、毎年9月の「障がい者雇用支援月間」に開催しています。今回は中小オーナー企業における障がい者雇用をテーマに、障がい者雇用の原点を学ぶ全国有数の中小企業の街「大阪」らしい公開シンポジウムを下記のように開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2012年9月25日(火)13:00～17:00 (12:30受付開始)

場所：追手門学院大阪城スクエア

大阪府中央区大手前1-3-20 地下鉄谷町線・京阪線「天満橋駅」徒歩7分

主催：連合大阪、特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク

後援：大阪府、公益社団法人関西経済連合会

内容

(1) 大阪府ハートフル企業顕彰、NPOランプのともしび企業顕彰表彰式

(2) 基調講演・公開シンポジウム「中小オーナー企業に障がい者雇用の原点を学ぶ」

・基調講演「障がいのある人と一緒に働いて」

講師及びシンポジウムコメンテーター

矢野紙器(株)

代表取締役社長 矢野 孝 氏

・公開シンポジウム

シンポジスト

(有)奥進システム

代表取締役 奥脇 学 氏

(有)サンライズCLID大阪

代表取締役 奥村 菜穂美 氏

丸善運輸倉庫(株)

代表取締役社長 森藤 啓治郎 氏

進行役

特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク代表理事 江口 敬一 氏

参加費：無料

申込み：事前申し込み制 9月18日(火)締め切り

問い合わせ・申し込み先：特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク

TEL(06)6949-0350 FAX(06)6949-1256 E-MAIL: o-isc@onyx.dti.ne.jp

アクセスマップ

- ・京阪電車「天満橋」駅下車 東出口14番より東へ徒歩7分
- ・大阪市営地下鉄谷町線「天満橋」駅下車 1号出口より東へ徒歩7分(ドンセンター隣)

追手門学院大阪城スクエア(追手門学院大手前中・高等学校本館6階)

大阪府中央区大手前1-3-20



実際に働いている当事者からの体験は、さまざまな立場の心に響く！

～公開講座「精神障害者のはたらくを考えるシンポジウム」～

副代表理事 湯川隆司

▽はじめに

毎年3月は、大阪障害者雇用支援ネットワークと大阪精神科診療所協会の共同開催で、精神障害のある方の就労や雇用継続に向けた啓発活動を行っています。

今回は、当事者の方々にご登壇いただき、『当事者の体験発表から学ぶ』をテーマにシンポジウムを開催しました。

【日時】：2012年3月17日 14:30～16:30

【場所】：エルおおさか南館

【シンポジスト】：当事者（語り部の会メンバー／竹内さん・和泉さん・森光さん）

【コーディネーター】：NPO大阪精神障害者就労支援ネットワーク（以下JSN）金塚統括所長

▽金塚氏：JSNでは“はたらきつづける”ことをミッションに、設立から5年が経ち、今年1月で約100名の方が就職しました。その内、80%の方が今も働き続けています。その取り組みのひとつとして、『語り部の会』があります。目的は、3年前にJSNで就職した方々が自分の体験を基に、これから就職を目指す利用者に発信することがスタートでした。本日は、その『語り部の会』メンバーに登壇いただき、①簡単な自己紹介、②働いている会社と仕事内容、③何年目、④会社の雰囲気、⑤会社での楽しいことやしんどいこと、⑥働き続けるポイント、⑦自分の短所・長所、⑧将来の夢、を中心にお話をいただきます。

発表後には、私を含めた本日会場にお越しの方々から、質問をいただきたいと思っております。

▽竹内さん：①49歳です。②企業の社員食堂で働いています。主に食器洗浄です。③実習も合わせ4年ぐらい働いています。④おしゃれなお店です。⑤会社で楽しいことは、おしゃれなお店なので、美人なお客さんがたくさんいることです（笑）。しんどいことは、食器洗浄でベルトコンベアーから大量に食器が運ばれるので、スピードを要求されることです。⑥働き続けるポイントとしては、職場でおこるトラブルの度に、JSNスタッフや、病院のワーカーが飛んで来てくれて、職場の仲裁に入ってくれたことです。その時に自分の病状や状態、サインなどを職場の仲間と話し合ってもらえたことです。⑦自分の長所は、最近「性格が丸くなった」と言われるようになりました。短所は、“すぐキレてしまう”ことと、“気が弱い”ことです。あとは、“気分がムラがある”ようで、周りか

ら「気難しい」と言われます。それが、人間関係やコミュニケーションの難しさにつながっているように思います。⑧将来の夢は、長く働き続け、今の水準で生活ができればと考えています。

▽和泉さん：①35歳です。②高槻市の福祉協会で働いています。主に、全盲の方への出版物を点字に訳す仕事や、社内の事務業務です。③今年の1月で3年目になります。④職場の雰囲気はアットホームで、わりとゆっくりした感じでした。また、同じ障害の手帳を持つ者同志の職場であることから、互いに障害があることでの“やりにくさ”なども分かり合いながら働いているのも特徴的なところでした。⑤楽しいことは、仕事があることです。しんどいことは、自分は家庭を持っていて、子どもを保育所に送るのが私の役割なので朝が大変です。苦手なことは、大量の仕事がある時や、職場からノルマがあったり周りから急かされる時です。⑥今の職場では障害をオープンにしているので、自分の苦手な部分を知ってもらう等、配慮があるので働きやすいです。それが長く続いているポイントだと思います。⑦性格はおっとりしていて、「のんびり屋、気が長い」とよく言われます。反面、マイペースな性格から、急がされるのが苦手です。⑧将来の夢は、これまで転職を繰り返すことが多かったので、今の職場で長く働きたいです。また、過去に自分が障害をクローズにして働いてきたしんどさなどの経験があるので、今住んでいる地域で、精神保健のピア活動ができればと考えています。

▽森光さん：45歳の中年オヤジです（笑）。②寝屋川の【三油倉庫株】で働いています。仕事内容は、折りたたみ式コンテナの洗浄で、主にパレットの仕分けや、汚れたコンテナをフォークリフトで運ぶ仕事をしています。③【三



▲コーディネーターを務める金塚JSN統括所長

油】だけに、働き出して油がのった3年目です(笑)。④明るくユーモアのある雰囲気です。⑤楽しいことは、仕事の工程が多く任されるようになったことです。

しんどいことは、工程によって力仕事があることや、チェックや仕分けが大量にあり忙しいことです。⑥働き続けるポイントは、人間関係がうまくいっていることです。あと、少ないですが給料があって、今の生活が成り立っていることが最大のポイントと言えます。⑦性格の長所は、穏やかで、あまり怒らないことです。少しユーモアがあるところも自分の長所だと思っています。短所は、人の話が聞き取りにくく、理解することも苦手なので、相手をイライラさせてしまうことです。⑧大きな夢がなくても普通の暮らしや、給料がもらえる人が多くなる世の中になればいいなと思っています。

▽金塚氏：それでは、各自に質問をします。仕事を始めようと思ったきっかけは？

▽竹内さん：年金だけでは生活が厳しくなったためです。

▽和泉さん：28歳で結婚、すでに働いていました。発病してからは、しんどかったので、自分は家に居たかったが、カミさんに尻を叩かれ、家庭内の力関係によって働こうと思いました(笑)。

▽森光さん：発病する前は、前の会社で10年間働いていました。発病後は、家で寝たままです。これではいけないと思い、社会と関らなければと思ったからです。

▽金塚氏：JSNでは障害をオープンにして就労を目指しますが、当初は抵抗がありましたか？

▽竹内さん：前の職場でも障害をオープンにしていたので抵抗はなかったです。クリニックの紹介でJSNに行きましたが、就職はできず、働き続けているので良かったです。

▽和泉さん：はじめは抵抗がありました。しかし、これまでの離転職を繰り返した中で、前の職場から「病気があるので長続きしないのでは？」と言われたことと、“生活の為に何としてでも働かなければならない”と思っていたので、障害をオープンにして就労を目指そうと思



▲シンポジウムの様子

いました。

▽森光さん：オープンにするということは“隠してない”ということから逆に気が楽でした。

▽金塚氏：JSNでの訓練も順調に進み、就職が決まりましたが、特に働き始めるときに(トライアル雇用時なども含め)不安だったことは？

▽竹内さん：全部不安でしたが、特に、職場の人とどう接していけばいいか、人間関係で悩みました。でも、素直に自分の悩みをJSNスタッフに相談したのが良かったと思います。

▽和泉さん：私も全部不安でしたが、過去の職場経験から、仕事が出来て、意地悪をする人との関わりが苦手な経験があり、『どんな人が職場にいるのだろう』と不安になることでした。

▽森光さん：自分も声の大きな人が苦手、不安がありました。

▽金塚氏：やはり、過去に何度も離退職の経験がある中から、JSNでの就労訓練を受けて就職が決まったら、喜びだけでなく、彼らは『就職しても大丈夫なのかな？失敗をするのでは？』と思う気持ちが強いようです。支援者が彼らと職場の橋渡し役であるこの重要性を再認識しました。では、ここからは会場からの質問をお願いします。

※【抜粋】

【質問①】：職場で、障害をオープンにして働いていると聞きましたが、同僚の方はどれくらい知っているのでしょうか？また職場での配慮はありますか？

▽竹内さん：全員知ってくれています。仕事での配慮は特にありませんが、「調子どう？」など、よく声をかけてくれます。

▽和泉さん：全員知っています。また職場のキーパーソンになる方が、自分の苦手なことや、しんどいところを代わりに説明してくれます。職場では、一人で静かに取り組める場の確保や、時々横になるような場所の配慮があります。

▽森光さん：全員知っています。特に配慮はないですが、相談すれば都度分かってくれます。

【質問②】：3人にとって、JSNとはどんな存在ですか？

▽竹内さん：クリニックでJSNのパンフをもらってなければ、今の自分はないと思います。

▽和泉さん：同じくJSNのお陰で今があります。大きな存在です。

▽森光さん：心のオアシスです(笑)。

【質問③】：これから働きたいと願う方々に、一言ずつアドバイスをお願いします。

▽竹内さん：自分の状態が悪くなった時に、相談できる人がいるかですね。

▽和泉さん：同じです。相談できる人がいることは大切です。あとは相談できる人がいれば、夢に向かって進んでください。進むことが経験

となります。

▽森光さん：家にいても何も始まりません。試行錯誤で取り組んでいくことが大切です。

おわりに

自らの体験を語っていただき、会場にお越しのさまざまな立場の方々への心強い勇気と、これからの雇用に向けての力強い一歩となり、いい時間を過ごすことができました。

“はたらきたいと願う”障害のある方から、『支援者がこころのオアシス』であることを期待する言葉が、私の心に残りました。



▲ディスカッションの様子

<短期職業訓練インターンシップ実施状況 (H24.6.30)>

I. インターンシップ登録及び実施状況

実施中及び実施済件数	25名
修了数	15名
中退数	2名
(うち雇用移行のための中退数)	(0名)
実施中数	8名
実施予定および調整中	8名
登録取消	2名
IS 利用登録人数合計	35名

II. インターンシップ相談者状況

<全体>

	身体					小計	知的	精神	その他	計
	聴覚	視覚	肢体	内部						
実施	修了者数	2	0	0	0	2	6	6	1	15
	中退者数	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	実施中数	0	0	0	0	0	1	6	1	8
小計	2	0	0	0	2	8	13	2	25	
実施予定・調整中	1	0	0	0	1	3	4	0	8	
登録取消	0	0	1	0	1	1	0	0	2	
合計	3	0	1	0	4	12	17	2	35	

III. 就職状況

	身体	知的	精神	その他	全体
就職者数	1	0	2	0	3
障害種別就職率	50%	0%	15%	0%	12%

※就職状況については一部確認が取れていない所があるため、数に反映できていない可能性があります。

H24年度 インターンシップグラフ

